

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100642		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	あったかいごグループホーム東安庭 (1F)		
所在地	〒020-0824 盛岡市東安庭1丁目23番70号		
自己評価作成日	令和5年1月24日	評価結果市町村受理日	令和5年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「共に和み 共に生きる」の理念のもと、利用者様に寄り添い、支え合いながら一緒に生活することを重点において日々支援しています。日常的に利用者様、ご家族とコミュニケーションを取り意向を伺い、可能な限り希望に近づけられるよう心掛けています。  
協力医療機関や訪問看護と連携を取り、重度化や看取りにも対応しています。また、同一敷地内に同法人のサービス付き高齢者住宅があり、緊急時や行事の際はお互いに協力がとれる体制が出来ています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、2階建ての建物の中に2つのユニットがあり、1階と2階は同じ造りとなっている。敷地内に、同じ会社が運営するサービス付き高齢者向け住宅が隣接していて、運営推進会議を合同で開催しているほか、非常時にも協力し合う体制となっている。近隣には内科・外科クリニック、歯科医院、訪問看護ステーション、薬局があり、協力医療機関として連携が図られ、日頃の受診と緊急時の対応のほか、重度化した場合や終末期にも利用者と家族が安心して納得する対応ができるよう取り組んでいる。職員の男女割合、年齢、経験年数など、職員構成に厚みがあり、利用者の個性に応じた効果的な支援ができるようになっている。現在、ミャンマーから二人の技能実習生を受け入れており、若く積極的な実習生に利用者も職員も良い刺激を受け、明るい雰囲気グループホームとなっている。職員は実習生を指導するため、自らも研鑽に励んでいて、サービスの質の向上につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和5年2月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み 共に生きる」を理念に掲げ、利用者様、ご家族の思いに寄り添いながら笑顔で生活できるよう取り組んでいます。	会社が作成した全事業所共通の理念のもとに、職員は利用者と一緒に時間を過ごしながら支援に努めている。理念は廊下のボードに掲示し、常に確認できるようになっている。理念を踏まえた事業所独自の行動指針などは定めていないが、職員は「利用者が穏やかに、安心して過ごしてほしい」という共通の思いをもって理念を具体化する実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在、コロナ禍のため地域との交流は控えています。	町内会に加入しているが、地域は若い世帯が多く、日常的な交流の機会は少ない。また、回覧板などの地域の情報はなく、コロナ禍もあり、資源回収や地域の行事にも参加していない状況が続いている。コロナ禍前は、近隣の保育園との交流があり、ハロウィンの際には子どもたちがパレードに来てくれた。	地域とのつきあいは、利用者の地域での暮らしを支え、事業所と地域との協力関係などを維持発展させる上での基盤となるものです。事業所を紹介するチラシを回覧板に挟んでもらったり、認知症などの相談の機会を設けたりすることなどを検討して、地域との交流を深めていかれるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報を通して利用者様の生活の様子から認知症の理解を図っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際は、町内会長、民生委員、ご家族、五月園地域包括支援センター、中野交番に参加を依頼し、サービス付き高齢者住宅と合同で行っています。事業所の状況や利用者様の状況、事故報告などを行い、出席者様より運営に関する意見や助言をいただいております。	コロナ禍により書面会議が続いているが、9月には参集しての会議を開催した。メンバーには資料と共に返信用封筒を同封し、意見をもらっている。メンバーに町内会からも入ってもらっているが、都合により参加できないことが多い。現在は、利用者や家族もメンバーに入っていない。前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を作成し、会議の開催時に前の会議で出た意見とその対応を記載した議事録を配付することになっていたが、現在も取組みの過程にある。	事業所を理解してもらったり、地域との交流を深めたりする上でも、地域からも参加してもらうことが大切です。町内会のメンバーの都合が付かないときは、町内会からどなたかに参加してもらえるようお願いしてはいかがでしょうか。また、以前行なわれていた家族の参加や、目標達成計画にあった議事録の配付にも引き続き取り組んでいかれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種申請時は担当課に直接出向き、わからないことは相談に応じていただいております。	各種の申請、届出、報告などを行なう際には、市の担当課に出向き、担当者とお話を直接交わして、連携を深めるよう努めている。地域包括支援センターの担当者にも事業所の実情を伝え、親身になって相談にのってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で「身体拘束排除宣言」を掲げ、職員一丸となって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束適正化に関する指針をもとに定期的に研修を行っており、再確認している。	「身体拘束排除宣言」とともに「身体拘束適正化に関する指針」に基づいて、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。勉強会を年2回開催して権利擁護や身体拘束に関する理解を深めるとともに、全職員で構成する適正化委員会を年4回開催して言葉による遮りもなくするよう事例をもとに話し合っている。玄関の施錠は夜間のみで、日中はセンサーで出入りがわかるようにしている。居室では、転倒のおそれのある利用者のベッド下に床センサーを設置している。向精神薬については、訪問診療での診察結果によって個別に用いることがあるが、できるだけ使用を減らすようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する資料を回覧している。不適切なケアを見かけた場合はお互いに注意し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が選定されている利用者様がいることもあり、後見人と連絡を取り合い利用者様を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は、ご家族へ重要事項説明書等の説明を行い、納得したうえで契約書を取り交わしている。また、改定の際も文書にて説明、同意書を提出していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等で来所された際に、意見交換を行うようにしている。また、玄関に意見箱を設置している。	家族が面会に来たときには、職員は家族と話を交わし、家族が意見や要望を表せるようにし、また、家族に利用者の様子を伝える電話をするときにも、意見や要望を尋ねるようにしている。家族からは「コロナ禍で面会が禁止されているが、会わせてほしい」との要望が出されたので、玄関での非接触の面会を可能とするなど、要望を運営に反映させるよう努めている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の際に面談を行い職員の意見、要望、提案など聞くようにしている。また、職員会議の際にも意見交換を行い業務の改善をしている。	職員の意見は日常のコミュニケーションの中で聞くようにしているほか、毎月の職員会議の際や年2回の人事考課面談の際にも意見や要望を聞いている。職員からは、利用者の支援につながる企画が提案されたり、職員の研修や処遇改善などの要望が出され、それらの実現に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や経験年数に応じた期末手当の支給、系列事業所との交流、契約職員の正規職員登用制度など向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役職に応じた内部研修や経験を考慮した外部研修へ参加している。また、技能実習生を受け入れており、指導する職員も学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会に加入し、情報交換を行っている。また、系列事業所とは定期的に連絡を取り合いお互いにサービス向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人とお会いし、状態を確認するようにしている。また、ホームでどのように生活して行きたいか意向をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や直接お会いし困っていることやご意向を伺い、できる限り意向に沿った対応を心掛けている。また、体調の変化や事故発生時等、その都度ご家族へ連絡し状況を報告している。		



事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族の意向、身体状況を確認し、必要な支援の方法を考え提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることに着目し、無理の無い範囲で家事等の役割を担っていただき共に生活しています。また、昼食は職員も一緒に食べることで暮らしを共にする雰囲気作りを心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ無理のない範囲で定期的な面会を呼び掛けております。また、通院時の同行や運営推進会議への参加も協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、状況に応じて規制して(タブレット使用や電話)対応している。現在は予約制、短時間で玄関のみ非接触の面会としている。	コロナ禍で家族と利用者の面会を制限していたが、現在は予約により玄関で非接触の面会は可能としており、できるだけ家族と利用者が会えるよう支援に努めている。また、訪問看護師や訪問理美容師、差し入れに干しシイタケを持って来てくれる近所の人など、新たな知り合いもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間で会話が難しい時やトラブルになりそうな時は職員が介入し関係を取り持つように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も他施設、病院等、転出先と情報交換等、適宜行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際にご本人、ご家族から思いや意向を確認している。思いや意向を伝えられない方は、その方にとって心地よいこと嬉しいことを職員みんなで考え共有してケアを行っている。	日々のかかわりの中で声をかけ、思いや希望の把握に努めている。言葉での把握が容易ではない利用者が多くなっているため、「はい、いいえ」で答えられる問いかけをしたり、表情や行動で意向を判断したり、どうしたら穏やかに過ごせるかを職員間で話し合ったりしている。居室担当者を決め、利用者の意向や思いを個別の日誌、申し送りノート、気づきノートに記載して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ケアマネージャー、利用していた施設等から情報の収集、情報交換、共有を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録と生活日誌を活用し一人一人の状態を把握できるように努めている。また、カンファレンスを開催し職員間で情報の交換、共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、職員間で情報の交換、共有を行っている。また、支援の方法について検討している。おおむね6か月毎に介護計画を見直している。	居室担当者が1か月間の利用者の様子をモニタリングしている。基本は1か月ごとにカンファレンス会議で検討を行ない、訪問診療・訪問看護での医療関係者の意見や利用者や家族の要望を反映させながら、変化の状況によってはその都度、基本は3か月あるいは6か月毎に介護計画を見直している。介護計画は、「目標、実践、評価、今後の課題等」の項目ごとに、家族にもわかりやすく丁寧に書かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を個別に記録し、申し送り時等、情報の交換、共有に努めている。また、申し送りノートを活用し、情報共有している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況を考慮し、可能な限り柔軟に対応できるよう心掛けている。ニーズによっては関係機関に相談・助言いただきご家族へ情報提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや町内会に当事業所を認知してもらえよう広報を届けている。有事の際は協力していただけるように呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、ご本人、ご家族の同意のもと近隣の協力医療機関に切り替え、隔週で訪問診療していただいている。急病の際は、職員対応で受診し、ご家族に報告している。	入居の際、本人と家族の納得の下に利用者全員が近隣の内科・外科の協力医療機関をかかりつけ医とし、隔週の訪問診療を受けている。協力医師の専門外の受診の際は職員が通院介助し、家族に情報を伝達している。そのほか、協力歯科医師の随時対応、皮膚科医師の往診、看護師の毎週訪問、薬剤師の隔週訪問など、適切な医療を受けられるよう連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、毎週木曜日に訪問し健康管理、相談、急病時等は随時対応(電話、訪問)していただいている。また、医師の指示で個別での対応も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は入院先と情報交換を行い、入院中の生活が安心したものとなるように、退院後は施設での生活がスムーズに送れるように努めている。コロナ禍のため面会は難しいですが可能な限り状況確認を細目に行っている。		

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に看取りを含めた説明を行い、ご家族に意向を確認している。また、状態の変化が見られた際は随時ご家族に報告し、医師、訪問看護を含め対応について確認する機会を設けている。	重度化した場合や終末期の対応指針を定めており、本人や家族の意向を踏まえ、安心して納得した最期を迎えることができるよう、入居時から随時、意思を確認しながら、支援に取り組んでいる。特に、協力医師や訪問看護師との連携がよく図られ、看取りに対応できる体制が整っている。これまでも看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応方法を施設内に掲示し、職員が把握できるようにしている。避難訓練の際には、AEDの使用法や救命救急についての訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難計画をもとに定期的に利用者様を交え訓練を行っている。非常時の持ち出し袋を玄関に常備しており、非常食等は駐車場の物置に備蓄している。有事の際は、同一敷地内のサービス付き高齢者住宅の職員と協力する体制をとっている。また、町内会を通じ近隣住民にも協力を要請している。	水害、地震、火災に対応したマニュアルを整備し、定期的に避難訓練を実施している。災害に備えた備品等も準備している。災害時には、同一敷地内にある同じ法人の施設職員と協力する体制となっているほか、地域の協力も町内会を通じて要請している。前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を作成し、夜間に避難する際の課題の把握と改善に取り組むこととしているが、現在も取り組みの過程にある。	夜間に避難する際の課題を把握し、改善することは必要なことです。実際に夜間に訓練することはできないとしても、夜間を想定した訓練を行なってみることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮した声掛けや、人生の先輩として敬意を持った対応を心掛けている。また、言葉使いについて職員間で注意し合ったり、接遇に関する研修を行っている。	入浴、着替え、排泄などの際、羞恥心やプライバシーに配慮して支援に当たっている。利用者の個人情報の管理にも注意を払っている。また、職員会議で言葉遣いなどの接遇研修を行ない、利用者を人生の先輩として敬意を持って対応するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に意向を確認し支援するように努めている。うまく言葉で表現できない方や理解力に難がある方には選択できるような声掛けを行うよう工夫して対応したり、ご家族に確認している。		



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、排泄、起床・就寝時間、余暇活動等、声掛けはするものの無理強いせず、ご本人の意向やペースを配慮した対応を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月での訪問理容、爪切り、髭剃り等の整容のお手伝いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕は配食サービスを利用している。昼食は利用者様から希望を聞きメニューに取り入れている。行事食や季節にちなんだ献立を考え利用者様に楽しんでいただけるよう努めている。利用者様にはできる範囲でテーブル拭きや食器洗い、食器拭き等を手伝っていただいている。	朝食と夕食は、米飯と汁物は職員が調理するが、副菜は配食サービスを利用している。昼食はすべて職員が調理している。利用者は盛り付けやテーブル拭きなどを手伝っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで一緒に食事を味わっている。また休浴日には、利用者と職員が一緒におやつを作ったり、昼食に焼きそばなどを作ったりしている。誕生日には利用者の好みのメニューを楽しんでいる。コロナ禍前は、外食を楽しんだり、食材の買い物に利用者も出かけたっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録表にて1日の食事量・水分量が把握できるようにしている。また、主治医が定期的に血液検査を行っており体の状態も把握出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食前には口腔体操を行い、誤嚥予防に努めている。また、毎食後に居室で口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄の間隔、パターンを把握しながらトイレ誘導を行い排泄の自立に近づけるよう支援している。パットやオムツの適正使用についてカンファレンスの際に職員と検討している。	排泄チェック表を使用してトイレでの排泄ができるよう誘導している。トイレでの排泄を大切にしながらも、利用者の排泄の状態に合った容量のパットの使用についてもカンファレンスの際に検討している。夜間は睡眠を優先し、トイレ誘導の声掛けは行っていない。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を取り入れたり、水分を多くとっていただけるよう細目に種類を変え提供している。また、毎日朝食の際にヨーグルトを提供したり、ラジオ体操・ホール歩行で体を動かすよう働きかけ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、週2回日中のみ入浴と清拭、足浴を行っている。体調を考慮したうえで、できる範囲でご本人の希望に応じ適宜対応している。重度の方には職員2名で対応している。入浴の際は歌を歌ったり、会話を楽しんだりできるよう心掛けている。	週2回午前入浴を基本としているが、利用者の希望により、毎日でも午後でも入浴は可能である。一人で入浴できる利用者はおらず、職員が入浴支援を行なっている。入浴を嫌がる利用者には、時間を変更したり、職員を替えて話し掛けたりして、入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後より照明の調節を行ったり、テレビの音量を調節したりして休息や安心して入眠できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、内服薬の理解を図っております。状態の変化に注意し、主治医、訪問看護へ状態報告、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の自信ややりがいにつながるよう役割を持っていただいたり、塗り絵、計算、歌唱、散歩等、利用者様が個人や集団で楽しめるような余暇時間を設け、生活に張りや気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出は難しい状況。感染予防に配慮しミニドライブや施設周辺の散歩を行っている。	現在はコロナ禍により日常的な外出は行っていない状況にあるが、気分転換に市内をドライブしたり、季節の変化を感じられるよう紅葉ドライブに出かけたりしている。また、事業所の周囲の畑に出て外気に触れたりもしている。	

事業所名 : あったかいごグループホーム東安庭 (1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの重要さは理解しているがトラブル防止のため現金の持ち込みはご遠慮いただいている。希望される方についてはご家族と話し合い金額を決めてご本人が所持している。コロナ禍のため買い物には行けていないが自動販売機でジュースを購入している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族へ年賀状を毎年出している。希望があった際は、電話をつないだり、手紙のやり取りをしている方もいる。携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせる装飾物や行事の写真、利用者様の作品を掲示し心地よい場所となるよう工夫している。エアコン、空気清浄機、加湿器等で快適な環境となるよう調節している。	食堂兼居間のホールには、テーブル、椅子、ソファ、テレビが配置され、現在は季節の飾りつけとして雛人形が飾られている。また、エアコン、パネルヒーター、空気清浄機、加湿器で快適な温度・湿度に保たれている。利用者は、ホールでラジオ体操をしたり、カラオケで歌を歌ったり、新聞を読んだり、パズルで遊んだりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい方や少人数で会話を楽しまたい方など各々が心地よく過ごせるよう事務所にベンチ、ホールにはソファやテーブルを配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の慣れ親しんだ環境に近づけられるよう使い慣れた物を持参いただき配置している。入居後はご家族の写真やご本人の作品等を掲示し心地よくなるよう工夫している。	居室には、電動ベッド、洗面台、エアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者は馴染みの物を持ち込むことができ、テレビや位牌、家族写真などを置いている。日中、ホールではなく居室で過ごす利用者もいる。居室に掃除用具を置いて利用者が掃除できるようにし、職員も一緒に掃除を行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、所々に手すりを設置しており安全に配慮している。トイレや居室に目印や表札をつけ認識しやすいよう工夫している。		